

Newガンダムブレイカー  
wild fang

エイゼ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ガンブレ学園…この学園は本来ならばガンブラに関わる人材の育成等を行う学園だった。

しかし、現生徒会チーム『ラプラス・ネスト』による力こそ全ての考え方による所謂世紀末の様相を醸し出している学園に成り果てている。

この物語はサイドゼロの物語に非ず、学園に通う少年少女のチームの物語である。

「学園の為に…俺には無理だな」

「…けどな、俺達にとって大切な『モノ』奪うつてのなら…覚悟出来てるよな？」

# 目次

プロローグ

オリキャラ並びにオリガン解説①

1

オリキャラ並びにオリガン解説②

5

希望を胸にくゝハジマリゝ | 10

日溜まりの中でゝニチジョウゝ

13

授業開始①ゝバトル①ゝ | 17

授業開始②ゝバトル②ゝ | 23



## プロローグ

## オリキヤラ並びにオリガン解説①

相羽 巧（アイバ タクミ）

プロローグ時：15歳

本編：16歳

基本情報：

ガンブレ学園に通うごく普通のガンプラ馬鹿で面倒臭がりだが、自分やその周囲の大切な『モノ』を奪う行為や人物に対して牙を剥く様な一面を持つ。ガンプラの腕も悪くなく：主にエクシア等の高機動近距離タイプのガンプラの適正が高く、ビルダーとしても高い技術を持ち合わせている。

後述の雪村 茜とは幼なじみであり、恋心を抱くが：中々告白の決心が着いてない模様。

容姿は黒髪、黒目の短髪で多少痩せ形だが：所謂細マッチョである。

雪村 茜（ユキムラ アカネ）

プロローグ時：15

本編：16

基本情報：

ガンブレ学園に通う女生徒で、面倒焼きのお節介で人当たりも悪くなく：非公式で彼女にしたい娘のトップ3内にランクインするほど。

因みに、彼女自体は何も知らないらしい。ガンブラビルダーとしてはイージスやセイバーと言ったseed系ガンブラが好みであり：それが行き過ぎたのかフリーダム系ガンブラとのバトルの際には一切容赦無く破壊する様が確認されている。

本人曰く「何か：割れた感じが：」との事。

彼女も巧の事は好きらしいが、返事を待っているといった乙女なのか周囲がヤキモキしてる模様。

容姿はISの箒を雰囲気柔らかくした感じ。

トーマ・アルバトロ

本編：15

ガンブレ学園に通うギリシャからの留学生。美形と紳士的態度から女生徒からの人気は高いものの、彼自身は相羽 カナミに御執心の模様。

本人曰く「昔に出逢って一目惚れです。」

ビルダーとしての技術並びに技量も高く、主に鉄血系ガンブラをメインにアセンを組

む。

容姿はウェーブの掛かった金髪に蒼眼で所謂モデル体型。

相羽 カナミ（アイバ カナミ）

本編：15

基本情報：

ガンブレ学園に通う少女で相羽巧の妹だが、彼女が5歳頃に両親の再婚の際連れ子同士での兄妹となる。

性格は自分に自身が無いものの、困ってる人を放って置けない位優しい面や間違ってる事に立ち向かえる面も併せ持つ。

ガンプリビルダーとしては、AGE系や可変型ガンプラ等を好んでアセンを組む。

トーマのアタックに困惑しつつも、後述の穂高 宗吾にも好意を寄せられてる模様。

容姿は若干黒みがかかった茶髪に紫眼：髪型はセミショートで体型は痩せ型で胸はマリカ以上ユイ未満

穂高 宗吾（ホダカ ソウゴ）

本編：15

基本情報：

ガンブレ学園に通う男子生徒。

余り表情が判りにくい、無口と周りから怖い奴のレッテル貼られてるものの、本質はかなりマイペースだが責任感は強い。

唯一、ガンブレ学園には家から通ってるらしく：関わりが当初は無かったものの、ある事件をきっかけに相羽 カナミに好意を抱く。

ガンプラビルダーとしては、重量級ガンプラ（ZZ等）を愛用しており、良くアセンしている。

容姿イメージとしては、ゴッドイーターシリーズの雨宮リンドウを若くした感じ



## オリキヤラ並びにオリガン解説②

ガンダムトワイライト

head: エクシア

body: エクシアアヴァランチダツシユ

arms: スターバーニング

legs: V2ガンダム

backpack: ガンダムX

shield: シグルシールド

ビルダースパーツ: チークガード×② (head)、スラスターユニット×② (legs 2両側)、追加装甲板×② (legs 1両側) ビームピストル×① (leg 1右側)、トライブレード×1 (leg 1左側)

解説: 相羽 巧の駆るガンプラ。基本的には高機動近接仕様でありながら、遠距離戦に対応できる汎用性の高いガンプラとなった。

欠点としては、高機動重視による機体耐久値が低い点や機体の総合的火力が近接戦をしないとしり貧な点が挙げられる。

アイギスガンダム

head:イージス

body:ダブルオークアンタ

arms:キマリスヴィダール

legs:アルケー

backpack:ガンダムF91

shield:ジエガン

weapon①:ドリルランス

weapon②:ビーム・マシンガン(ギラドローガ)

ビルダーズパーツ:スタビライザー×①(backpack)、ビームピistol×②(leg s2両側)、追加装甲板×②(ピistolを収めるホルスター要素)、GNファングラッ ク×②(legの人体的には臀部に当たる場所)、丸型バーニア×①(leg真後ろ)

解説:雪村 茜が使用するガンプラ。

『女性らしく』のコンセプトの元組み上げたこのガンプラは、一歩間違えればゲテモノ要素しかないパーツを使用しつつも試行錯誤の末に組み上げられており、完成度も高い。

使用するフレームは耐久値の高いエンチャントを使用。

このフレーム採用には本機のパーツスキルを円滑且つ有効に扱える為にとの事。

実際には、本機は汎用性の高い機体でありながら対艦並びに対MA撃墜率の高さが注目されるだろう。

欠点としては、スラスター出力を補うアセンを行ったものの、機動性の高い機体相手が若干苦手な点や一癖あるスキル構成を有効に使えるかといった要素が挙げられる。

### ガンダムハーデス

トーマ・アルバトロが相棒と称するガンプラ。

主に鉄血系並びに悪魔等の禍々しさと神々しさを目指して組み上げている。

使用するフレームはストライカーであり、高い攻撃力と反応速度を誇る。

欠点は、エンチャント以上のスラスター系の不足による足周りの弱さが挙げられる。

### AGEーミキシング

head:AGEIIーマグナム

body:AGEIIIーノーマル

arms:イージス

legs:キュリオス

backpack:ライトニング

shield:Zガンダム

weapon①:ビームサーベル(ウイング)

weapon②：ビームライフル（ライトニング）ロングバレル

ビルダーパーツ：

大型ビームキャノン×②（backpack両側）GNフィールド発生装置×①（leg腰側）、プロペラントタンク×②（backpack左右③）、レドーム×①（右側arms①）、シールドビット×②（legs左右①）

解説：相羽 カナミの制作したガンプラ。

AGE系と可変型ガンダムのパーツをバランスフレームに取り付けたガンプラであり、射撃型万能機よりのアセンを施している。あらゆる環境、敵機に対応可能とされている。

欠点としては、各種フレームの特化した分野では苦戦を強いられる点や、可変型特有の癖により操者を選ぶ点が挙げられる。

ブレイズZZ

head：ZZガンダム

body：ZZガンダム

arms：ブレイクディアス

legs：AGE—IIIノーマル

backpack：Pジムカーディガン

shield：腕部シールドバインダー

weapon①：ハイパービームサーベル

weapon②：ビームライフル+バズーカ

ビルダーパーツ：

ニークラツシャー×②（左右legs⑥）、スラストアーユニット×②（左右legs

②）、トライブレード×①（右肩）、GNフィールド発生装置×①（腰①）、丸型バーニア

×②（腰①左右）

解説：穂高 宗吾制作のガンプラ。

ZZの持つ火力を活用しつつも、防御や支援も視野に入れたアセンを施している。

使用フレームはエンチャントであり、宗吾のポリシーなのか『赤』とZZホワイトを

基調にしている。

欠点としては、原型機であるZZと比較して実弾兵装の少なさによる対ビーム対策機に対しての選択肢の少なさが挙げられる。

## 希望を胸に〜 ハジマリ

私立ガンブレ学園……ガンブラの制作、及びガンブラバトルに特化した人材教育を目的とした大規模学園都市の一翼を担う学園である。生徒達は皆、ガンブラを愛し、切磋琢磨することでその技術と精神を磨き上げる。

言語や文化の壁を越え、ガンブラが世界中の人々に愛されるようになった今日において、この学園都市における成果が日本の未来を占うと言っても過言ではない。

この学園は広大な敷地に建てられており、最新鋭の設備が導入することによってガンブラ界の次代を担う有望な人材を育て上げようというまさに先進的な学園だ。

その学園にも『入学式』はやってくる……新たに通う少年少女達は期待や不安を胸にこの日に向かえるのだ。

少年少女達の物語が今始まる。

四月一日、桜舞う私立ガンブレ学園の正門を歩む一人の少年は今日と云う日に若干興奮を覚えながら講堂に向かっていた。

「えっ……まさか、たつくん?」

気分が急降下するような感覚を覚えながら、自身のあだ名の一つを言い放った存在は

一言で表すなら美少女であった。

大和撫子の見た目やポニーテールに纏めた艶髪に純白の制服を纏った少女は、少年の反応に驚愕しながらも嬉しそうにしていた。

「そのあだ名を知ってるって事は…小学校以来だな…茜」

「!?…たつくん、覚えていてくれたんだ。」

一瞬間をしかめたものの、懐かしい人物に再開した喜びからか互いに笑っていた。

「当たり前だろ…まあ、雪村さんも綺麗になつてまあ。」

「って…何で名字呼び!?…まさか怒ってるよね?」

不貞腐れた風を装った巧の発言に驚愕する茜だったが、互いに我慢出来ずに笑いあう。

「冗談だ…つと、そろそろ入学式始まるから…一緒に行くか?」

「う、うん…一緒に行こっか」

互いに時間を確認しながら、急いで講堂に向かう二人を祝福するかの様に桜の花が舞っていた。

入学式も終わり…クラス分けの張り出してある廊下では、一喜一憂の声が響き渡る。

「つと…おおつ、茜と同じクラスか」

「本当だ…じゃあ、改めて宜しくね巧君」

一応幼なじみだが、分別のしつかりしてる二人であった。

「失礼……ちよつと確認させて貰えるかな？」

「ん？……ああ、悪い……邪魔したな」

後ろから声を掛けられ、一瞥すると金髪が目立った少年からであり巧と茜は場を退く。

「有り難う……ふむ、因みに君達の名前はつと失礼！……私はサカキ シモンと言う」

「律儀だな、あんた……俺は相羽……相羽 巧」

「私は、雪村 茜って言います……ってサカキ君も私達と同じみたいだね」

互いに軽い自己紹介がてらに話ながら、三人とも楽しそうに自分達のクラスに移動していった。



## 日溜まりの中で、ニチジヨウ

教室で担任を待つてる間にも、生徒達は交流を深めている。

「どうも、俺は相羽 巧……えつと……」

「ふふつ、御丁寧に有り難う……私はコウラ イオリ宜しく相羽君」

隣の席同士も兼ねての交流している巧と落ち着いた雰囲気を纏った少女イオリ。

「どうもくあたしはカミサカ チナツ……ちなちーでも良いよ」

「あはは……カミサカさんかあ、私は雪村 茜って言ふの宜しくね」

人懐こい少女チナツとの交流する茜といった感じで時間は過ぎていく。

「皆さん、席に着いて下さい」

其処に担任の先生である、落ち着いた雰囲気や知的さを感じさせる女性が入り生徒達に着席を促す。

「私が、皆さんの担任になります アイダ シエです……皆さん宜しくね。」

アイダ先生が自己紹介を終え、その流れで生徒達は自己紹介を終えていく。

「それでは、授業をと行きたいですが……今回はバトルルームでの授業ですから移動します。」

早速授業開始と思いきや、どうやら教室移動から始まるらしい…大半の生徒は楽しそうにしているようだ。

「何と言うか…あの先生も大概なガンプラ馬鹿だろうな?」

「ほう…巧はどうしてそう考えるのかな?」

移動しながら、駄弁る生徒達…巧はサカキに自分の疑問をぶつけ、サカキは関心しながらもその答えを聞く姿勢を見せている。

「私は、アイダ先生がガンプラ好きってのが判ると思うな。」

「判る…雪つちもそう思うよね」

「確かに…普通初日なら、大体座学から始まりそうな物よね…」

一方で、アイダ先生への好感を抱く…茜、チナツ、イオリであった。

そうこうしてる間に全員がバトルルームに到着…アイダ以外の面子は圧倒や興奮を隠しきれない様子を見せている。

「では…今回の授業は実際にガンプラバトルの実践と行きますが、そうですね…」

「とりあえずは、二組によるガンプラバトル後に…自由にガンプラバトルを行いましょう♪」

「おおっ…やった♪」

アイダの提案に生徒全員大歓喜の様子を見せる一方で…二組の選定を終えたアイダ

は指名に入る。

「まず一組目は…アイバ タクミ君、サカキ シモン君。」

「もう一組は…そうねえ、コウラ イオリさんとユキムラ アカネさんお願いね。」

「「はいっ！」」

指名された四人は緊張と期待を胸にシユミレーターに向かう、周りの生徒からの声援を受けて。

「これが…この学園のシユミレーターか…楽しみだな」

『お楽しみ在所すまないが、タクミは何を使うんだ?…一応私は、ツールギスIIを使わせて貰うよ』

「マジか!?…一応俺はガンダムエクシアを使わせて貰うぞ」

シユミレーターに興味湧かせるタクミに対して…シユミレーターからの通信でシモンから互いの使用ガンプラを言い合いながら始動開始を待つ。

「コウラさん…一応私はイージスを使うよ?」

『イージス…判ったわ、私の方は、試作一号機を使わせて貰うわ…その、ユキムラさんよろしく。』

「ふふっ…コウラさん、私の事アカネで良いよ?…堅苦しいのは無しでね。」

『ふふっ…中々悪くないわね、アカネ?…私もイオリで良いわ。』

一方の二組目のイオリとアカネペアも、使用ガンプラの確認等で更に交流を深めていく。

「それでは…アイバ、サカキペアの発進どうぞ!」

「判りました!…アイバ タクミ…」

『了解…サカキ シモン…』

「ガンダムエクシア…」

『トールギスII…』

『『行きます!』』

そうこうしてる間にアイダからの発進許可を貰ったタクミとシモンは…自身のガンプラをバトルフィールドに発進させた…今からどんなバトルが出来るか、その期待を胸に抱きながら。

## 授業開始①、バトル①

バトルフィールドに選ばれたのは、工作室をイメージしたステージだった。障害物の役割を持つガンプラや塗料、器材が置かれた机が無数と立ち並ぶこのステージは日常的な生活感のある場所に投影されたガンプラがバトルをするという非日常的な光景が広がる面白いステージだ。

そのステージに二体のガンプラが投影される。タクミのエクシアとサカキのツールギスⅡだ。

「サカキのツールギスⅡ…かなり良い出来だな…」

『タクミのエクシアも…良い出来だと思いがね』

互いのガンプラの出来はかなり良く、互いに称賛しあう。共に純正ガンプラでありながら熱の入れこみ具合から伺えるのだろう。

「っ…どうやら敵の登場みたいだな…」

『同時に、我々の今後に響くバトルではあるな…』

二機を迎え撃つ様に…ジム、ザクやドムと言った量産機達がフィールドに出現する。タクミとサカキは見やりながら、緊張の色を隠せない様だ。

「とりあえず…最初は此方が前に出る。サカキは支援を頼む」

『了解した…折りを見て入れ替わる様に動くとしよう』

サカキのツールギスⅡに支援を頼みながら、タクミのエクシアが前に出るのを待ちわびたかの様に敵の射撃が飛び交う中をまるで滑るかの様にエクシアは駆ける。

「アイバって言ったよな…中々良い動きするなあ」

「うんうん…それに楽しそうに動いてるよね〜」

そのエクシアの動きを観戦している生徒達も関心すると共に楽しそうに動かす様に徐々に興奮していく。

「…狙い撃つ…嫌まあ言ってみたい台詞なんだよな」

『全く…それで撃墜してるのだから呆れるやら関心するよ！』

多少余裕が生まれたのか軽口を叩きながら、互いに撃墜スコアを稼いでいくタクミとサカキは流石と言った所だろう。

「つて…サカキそろそろ前衛交代するか？」

『まあ、頃合いだろうな…タイミングは任せよう』

その中で、徐々にエクシアは後退しながらツールギスⅡに接近していく。

「んじゃあ…交代だ頼んだよ『シモン』…」

『全く…それは殺し文句だぞ『タクミ』！』

あわや衝突かと思われた刹那、エクシアはバク宙を繰り出しながら、ビームダガーを投擲し…その下をトールギスⅡはスーパーバーニアから産まれる推力を利用して敵機にビームサーベルを叩き込む。

「凄いわね…サカキ君もだけど、タクミ君も」

（やつぱり、たつくん凄いなあ私も負けられない！）

この一連の動きに、待機中のイオリとアカネも関心しながらも対抗心を燃やしていない。

「シモン…やつぱり最後つてのはさ…」

『タクミ…やつぱりこの位デカイのが来るものさ！』

一通りの敵機を撃破した所で、二機に立ち塞がるは…PGガンダム。

タクミとシモンは、緊張処か興奮を隠しきれない様子でPGガンダムに攻撃を仕掛けていく。

「流石PGだ…でも、ダメージは入ってる筈だ！」

『タクミ…《トランザム》は使えるか？』

「一応使える状態だけど…どうするんだ？」

『『セブンスード』と言えば納得してくれるかな？』

「成る程な…じゃあ、お互いに抜からない様にだな」

流石はPGと言った所だろうか…二機の火力に物怖じせず反撃のビームライフルを放つ姿は驚異的である。

その火線を避けながら二人は作戦プランを実行すべく駆ける。

「おっ!?!…アイバのエクシアがトランザムを発動させたぞ!」

「でも、まだPGを倒すのには早いんじゃないの?」

観戦している生徒達から疑問の声が挙がる中で、タクミのエクシアが真紅に染まる…トランザムを起動させたのだ。

「んじゃあ…行くぞ!…シモンお先にな」

『タクミ…私の活躍の場も残してくれよ?』

エクシアはガンダムに向かって駆ける…一方シモンのツールギスIIはその時に備えつつ、エクシアを支援する。

「こいつで…どうだ!…ちいつ、まだ耐久値が残ったか…」

『ふむっ…タクミ、後は私が幕を降ろさせて貰おうかな?』

「仕方ないか…じゃあシモン頼む」

『ふっ…ならば、落ちろ!!』

エクシアはトランザムを発動させながら、PGガンダムの攻撃を避けながらセブンスードを叩き込むが、ガンダムは驚異的な耐久値により辛うじて撃破されなかった。



だが、流石に堪えたのだろう…その巨体が膝をついた隙にエクシアは離脱し、その瞬間を待ちわびたトールギスⅡの最大火力でのドーバーガンが火を吹く。

丁度ガンダムが爆発する間にエクシアはトールギスⅡの隣に着地し、共にガンダムの爆発を確認するとバトルは終了した。

「あく疲れたけど…やっぱりガンプラバトルは良いよな…」

『お疲れ様だタクミ…後は彼女達のバトル観戦するでしょう』

「同感だな…とりあえずはシユミレーター出てからだな」

バトル終了した二人を観戦していた生徒達が迎える中で、タクミとシモンは次のイオリとアカネのバトル観戦の為にモニターに視線を向ける。

『アカネ…あの後のバトルだけど緊張してない？』

「あはは…実はちよつと緊張してるよ…でも負けれないよね？」

『そうね…とりあえずは私達のバトルも頑張るしかないわね』

一方のイオリとアカネもバトルに備えつつ、緊張を隠しきれない様子だが…同時に負けれない様子を見せている。

「それでは、イオリさんとアカネさんペア…発進どうぞ！」

『判りました…コウラ・イオリ…』

「は、はい！…ユキムラ・アカネ…」

『ガンダム試作一号機…』

「イージスガンダム…」

『「行きます!!」』

アイダからの発進指示を受け、イオリとアカネのガンプラは戦場に飛翔する。

## 授業開始②、バトル②

戦場選ばれたのは月面基地…広大なフィールドを誇り、コロニーの残骸や地下施設が目立つステージだ。

そのステージにイオリのガンダム試作一号機とアカネのイージスガンダムが投影される。

「イオリちゃん…一号機は溺れないよね？」

『やめて頂戴…縁起でも無いんだから』

アカネからの通信に苦笑を浮かべながら返信するイオリ…まあ、原作そのままなら懸念すべき事項だが判らない訳じゃないらしい。

「大丈夫なら…良いけどって来たみたいだね…」

『そうね…それなら、フフフツ…！』

そうこうしてる内に、ジムやザク等の量産機が出現する中、突如不気味な笑い声を挙げるイオリにアカネや観戦していた生徒達は困惑の表情を浮かべる。

「えっと…イオリちゃん？…『さあ、バトル開始よ！破壊して蹂躪してあげる！』ってちよつと!？」

嬉々とした表情を浮かべるイオリに通信したアカネだが、それに構わずに敵機に突貫するイオリに驚愕した声をあげるアカネだった。

「と、とりあえず私も戦わないと……!」

とは言い、呆けている暇は無いのだ……アカネも気を取り直してイージスを敵機に向けて駆ける。

「ユキつち……何かスケーターみたいで……綺麗……」

「コウラさんもだけど、ユキムラさんも凄いよ……」

まるで駆け抜ける嵐の如く敵機を蹂躞するイオリの一号機と対照的に、アカネのイージスはまるでファイギュアスケーターの様にビームや実弾を避けながら的確なライフル射撃や脚部ビームサーベルを駆使して敵機を撃破していく。

「んくやっぱりイージスのライフルは取り回しが悪いかも……ん? あれは、ザクのマシンガン……」

当の本人は、イージスのライフルの取り回しの悪さに辟易しながらもザクのマシンガンを発見と同時に回収する。

『うふふ……あはは!!……最高だわ!』

「イオリちゃんはあるな感じだけと……すっかり周囲の把握出来てるみたい……」

相変わらすのハイテンションのイオリだが、しっかりと周囲の把握出来てる点に関心

するアカネ。

そんなイオリにアカネはイージスのライフルをあろう事か投げ渡して来た。

『…アカネ? どういうつもりかしら…ってザクマシンガンですって!?』

「やっぱり私は、ライフルよりマシンガンの方が使い勝手良いと思うからね!」

ライフルを受け取ったイオリは疑問に思いながらアカネの方に目を向けると、ザクマシンガンに換装しながら敵機を撃破していくアカネに驚愕する。

『!?…どうやら大物みたいね!!』

ある程度の敵機を撃破した二人の前に投影される機体…PGストライクフリーダムガンダムが出現する。

『さあ…どうやって破壊しようかしら?』

「フリーダム?…」

『アカネ?…どうしたの…!?』

「フリーダム…フリーダムウウウ!!」

どの様に破壊するか思案するイオリに対して、突如ストライクフリーダムを確認して一端沈黙するアカネ。

確認の為に通信を入れるイオリだが、その瞬間にまるで衝撃の名を冠したガンダムのパイロットの如くストライクフリーダムに突貫するアカネだった。

『な、何なのアレ!?!…とりあえず援護するわ!』

「ユキつちの目…何かハイライト消えてない!?!」

(嗚呼、やっぱりこうなるか)

驚きながら援護に移るイオリやチナツを含めた生徒達が困惑するなか、タクミだけは諦感とこうなる事が判つてた表情を浮かべる。

「タクミ、後で説明出来るな?」

「判つた…一応本人も交えてなつてもうそろそろかな…」

そのタクミに何かを知つてると感じたシモンは、説明を求めるとタクミも了承しながらモニターに視線を向ける。

「こいつ…こいつだけは!」

『アカネ…何て動きなの…最高じゃない!』

ストライクフリーダムの攻撃を華麗に回避し、反撃するイージスの動きに賞賛しながら一号機のマシンガンとライフルの一斉射撃で援護するイオリ。

『アカネ!一緒に決めるわよ!』

「イオリ?...うん、お願い!」

一号機の一斉射撃にストライクフリーダムは膝を着いたのを見計らい、イオリはアカネと一緒に決めようと通信を入れる。若干冷静さを取り戻したアカネもイオリの狙い

に少々戸惑いながらも了承する。

『これで…終わり！』

同時に飛び出した一号機とイージスのビームサーベルがストライクフリーダム腹部…カリドウスの発射口に突き刺さる。

二機が離脱し…着地した瞬間にストライクフリーダムは爆発すると同時にバトルの終了を告げる。

「ふうっ…良いバトルだったわね…アカネ？」

「うわあ…またあの状態に…」

晴々とした表情のイオリに対して、明らかに落ち込んでいるアカネ…無意識と意識に残ってるのの差なのだろう。

シミュレーターから降りた二人は他の生徒の雰囲気が変わってる事に気付きつつ、皆と合流する。

「ううっ、お見苦しい所を見せちゃった。」

「で？…タクミは知ってた様だが、彼女は一体何であんな状態になるんだ？」

「まあ、俺とアカネは幼馴染みだがな…アカネの使うガンプラってイージスやセイバーな訳で…後は判るだろ？」

アカネがかなり落ち込んでる傍で、先程の質問をするシモンに応えるタクミも余り乗

り気で無い表情をみせる。

「成る程…要するにフリーダム原作再現を狙う輩に絡まれたって事かしら？」

「う、うん…余りに粘着するから、思い切ってバトルしてたら今日みたいな感じに…」

察したイオリに、アカネも気落ちしながら答える。

「まあ、今は此処までな…所でシモン…ちよつと良いか？」

「ん？タクミ、どうした？」

「今回はさ…協力でバトルしたけどさ、今度は自分達のオリジナルガンブラでバトルを…何時かしようって宣戦布告な…」

「!?…そうきたか、ならこのサカキ・シモンも受けて立とう！…何時か必ずな…」

一先ず切り上げたタクミはシモンに対してオリジナルガンブラでの対決を宣戦布告し、シモンも快く応じる…周りからは青春だねとの声が響く中穏やかに時間が過ぎていく。

『はあ…こんなものかい？僕を楽しませてくれないかな？』

「うわあ!?!…俺の機体が…」

場面は変わって、生徒会長とこの学園に転入してきた生徒のバトルのだが…ガンダムバエルをベースにしたガンブラが、生徒会長のフリーダムベースのガンブラを圧倒する光景が繰り広げられる。



う。この日を境に少しずつだが、確実に学園が歪み始めるのをまだ誰も知り得ないだろう。